



こくぶんし 国分寺

国分寺崖線周辺には歩
その中でも歴史的資産や
の魅力を感じられるよう
ています。それぞれのル

武家屋敷門

行善寺

五島美術館

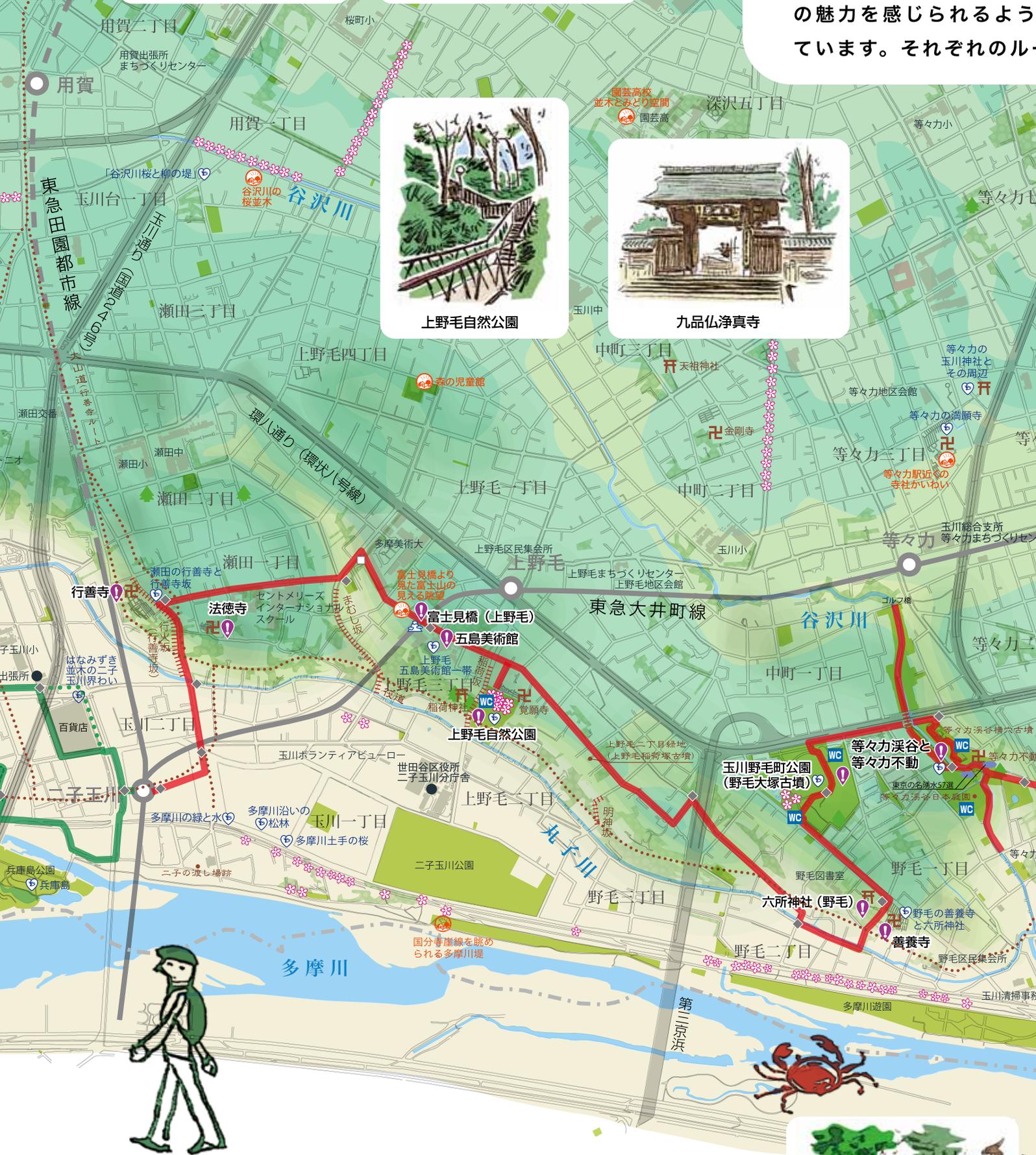
日本体育大学



上野毛自然公園



九品仏浄真寺



富士見橋 (上野毛)



六所神社 (野毛)



善養寺



等々力溪谷

(一財)世田谷トラストまちづくり ビジターセンター



世田谷のトラスト運動やまちづくりの普及・啓発、情報交流基地です。みどりやまちづくりに関する書籍が閲覧・貸出可能な図書コーナー、国分寺崖線に関する図書や活動情報を紹介している崖線コーナーなどがあります。



成城五丁目猪股庭園



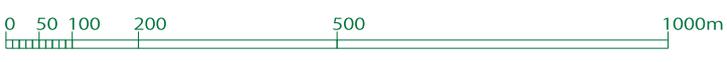
神明の森みづ池



富士見橋 (成城)



きたみふれあい広場



市民緑地

都市に残された民有地のみどりを守るために、都市緑地法で定められた制度です。緑地の所有者と自治体またはみどり法人が使用貸借契約を結び、一般の方々にもその緑地を公開していくもので、300㎡以上の土地が対象です。



なかんだの坂市民緑地



こもれびの庭市民緑地

【凡例】

- おもいはせの路 (おすすめ魅力発見ルート)
- きしべの路 (おすすめ魅力発見ルート)
- きしべの路
- おもいはせの路・きしべの路のサイン (標柱型)
- おもいはせの路・きしべの路のサイン (タイル型)
- おすすめポイント
- 周辺の散歩ルート
- 桜並木
- ルート上で見える名木
- 公園・緑地
- 古道
- 関東の富士見百景
- 緑道
- 神社・寺
- せたがや百景
- 坂道
- 河川
- 地域風景資産
- 駅・鉄道線路
- 湧水
- ルート付近のバス停
- 区界
- トイレ
- ※ 市民緑地については、一部名称を省略して記載しています

kishibe route

【きしべの路】

崖線発見



国分寺崖線に沿って残る豊かなみどりや水辺の風景をたどりながら、かつての暮らしと文化を訪ね歩く路です。

マップの使い方
この道を地図上に印字すると、周辺をみながら歩くのがわかります。

成城五丁目猪股庭園

(財)労働行政研究所理事長を務めた故猪股猛氏が昭和42年に建てた武家屋敷風の邸宅です。近代数寄屋造りの第一人者で、文化勲章受賞者の故古田五十八氏が設計しました。



喜多見不動堂

明治10年に多摩川に流れつたお不動様を祭っています。冬至の日には、粥を供養して福を招き災いを防ぐ星祭りが行われます。不動の滝、湧水があります。

神明の森 みつ池

23区では珍しい自生のゲンジボタルをはじめ、クワガタ、カナブン、コゲラなどたくさんの動物やハンノキやセキショウなどの植物が見られます。自然保護のため開放は年数回の観察会の時に限られていますが、周囲で鳥の声を聞くだけでも、豊かな森の自然が感じられます。

きたみふれあい広場

小田急線の電車車庫の上にある人工地盤の公園です。地上10mの高さにあるため見晴らしが良く、国分寺崖線の緑の帯が一望できます。



次大夫堀公園民家園

かつて喜多見から國本界隈の農地を潤した六郷用水の大事業を成し遂げた、旧今川家の家臣の小泉次大夫からその名が付けられたこの公園は、昔ながらの小川や自然を復元した公園です。用水や田圃も再現され、地元の小学生により、田植えや稲刈りの体験学習が行われています。

永安寺

山門を入ると境内には樹齢100年といわれる大イチョウがあります。世田谷で最初の図書館を開設し、数々の著書を残した石井至毅のお墓もここにありです。



岡本公園民家園

復元されたかやぶきの民家は、18世紀末に建てられた旧長崎家の母屋を、6代目孫兵衛が増改築したものといわれています。年代物ながら手行き届いている民家園は、国分寺崖線の雑木林に溶け込み、心安らぐ雰囲気のある場所です。民家園では四季折々の年中行事が再現され、お茶会や句会など、広く区民に開放されています。



岡本八幡神社

江戸時代初期に建てられたのではといわれていますが、その起源は定かではありません。本堂に向かってまっすぐのびる勾配がきつい48段の石段があり、脇に迂回するように作られた、ゆるやかな坂は特に「おんな坂」と呼ばれています。

静嘉堂文庫

田三益財閥の故岩崎翁之助・小弥太氏によって収集された膨大な文化財の収蔵庫です。和歌20万冊の古典籍や「慶應天目茶碗」などの国宝、重要文化財を含む5000点の古美術品が収蔵されています。*静嘉堂文庫美術館の展示ギャラリーは、東京丸の内明治生命館1階に移転しました。



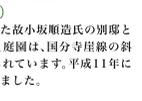
多摩川テラスの武家屋敷門

多摩川テラスの一角に移築された武家屋敷門。田圃山麓・池田家の筆頭家老の家ものとされます。間122m、奥行き8.8m、切妻造りで瓦ぶきの立派な門です。



瀬田四丁目目田小坂緑地(旧小坂家住宅)

信濃銀行取締役で後に貴族院議員を務めた故小坂順造氏の別邸として、昭和12年に上棟。区が用地を取得し、庭園は、国分寺崖線の斜面と湧水の流れを活かした散歩道が設けられています。平成11年に建物や門などが区の有形文化財に指定されました。



砧線の跡地散歩道

田原急務線の跡地を利用した散歩道は、玉電が描かれたタイルや砧線中継地駅跡の碑があり、歴史を感じることができます。



成城三丁目緑地

ここにはこんこんと湧き出る湧水があります。また崖線の地層も一部で見ることができ、かつての国分寺崖線の自然景観がそのままに残っています。この緑地では、近隣住民やボランティア、隣接する小学校の児童、世田谷トラストまちづくり、世田谷区など、多くの人たちが関わりあって、「都市の里山」をテーマに、みどりの保全活動が進められています。

富士見橋(成城)

切り通しがあるため、暗れた目にはその名とおりに富士山を真正面に見ることが出来ます。平成17年に不動橋とともに新しい橋になり、また、国土交通省の「関東の富士見百景」に選定されました。



setagaya gaisen map

崖線発見

国分寺崖線ってなあに？

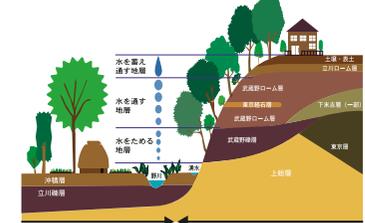
こんな自然豊かな風景が、わたしたちの住む世田谷にあるって知ってましたか？四季折々の水と緑が織りなす自然風景の生命線、それが国分寺崖線です。崖線のこと、ちょっと詳しく知るための豆知識をご紹介します！

私たちの住む世田谷区は、みどり豊かな住宅都市として、かけがえのないみどりを大切にしてきました。みどりは、そこに住む人々に潤いと安らぎを与えてくれるばかりではなく、環境や安全のために欠かせない存在でもあります。また、多くの生きものにとって重要な生息空間でもあります。区内には、大きな自然の営みと歴史の流れを肌で感じ

ることができる場所があります。それは国分寺崖線と呼ばれる「崖の連なり」です。多摩川が10万年以上の歳月をかけて武蔵野台地を削り取ってできたこの段丘とその周辺に残る樹林や湧水などの自然環境は、まとまった緑が多く残る「みどりの連続性が高い地域」として世田谷区の「みどりの生命線」と言われる貴重なものになっています。

水の湧き出る豊かな台地

世田谷区内にある湧水は約80か所。そのうちの8割が崖線沿いにあります。崖線斜面の地層によってもたらされたその豊かな水辺空間では、ハンノキをはじめ湿生植物が群落をつくり、いろいろな生きものすみかとなっています。



国分寺崖線の位置

国分寺崖線の「崖の連なり」は、立川市から国分寺市などを經由し、世田谷区から大田区へと延長約30kmにわたっています。世田谷区内では南西部に位置し、多摩川と野川に沿って約8km続き、高さ10〜20mの斜面からなります。



まちの歴史資産

国分寺崖線に沿って、たくさんのお墓があります。先史時代からの歴史を有するとともに、江戸時代には大山道、徳道、登戸道といった古道ができ、その沿道には歴史を感じさせる祠や神社等があります。明治時代以降は、浄水場や河川の堤防の整備などが行われ、近代化遺産となっています。また、等々力渓谷は平成11年に東京都の名勝指定を受け、保存管理計画のもとに整備を進めています。

先進的な住宅地づくり

江戸時代から農村としての歴史がある場所ですが、鉄道の開通とともに住宅地へと変わってきました。大正から昭和初期にかけては、財界人等の別荘が岡本から上野毛近辺にいくつも建てられました。その一部は、西洋の建築様式や技術の影響を受けた近代建築と呼ばれ、特徴のある街並みをつくり出しています。また、玉川地域では玉川全圃耕地整理事業により整った住宅街が生まれ、成城では反面整理事業により整然とした街並みが形成されました。このような時代の変遷をへて、現在もみどりの多い住宅街として発展を続けています。

みどりの連なる都市のオアシス

斜面地やその周辺には樹木が茂り森の緑を呈しています。それらの樹木は、元々、里山の雑木林として利用されてきたコナラ、クヌギ、イヌシデ等の落葉広葉樹が中心であり、新緑や黄葉等の季節の変化を感じる武蔵野らしい緑地帯となっています。また、松林やスダジイ等の常緑樹が場所ごとに混在し、多様な樹木から構成されています。

台地を感じる見晴らし

国分寺崖線の斜面にそって、いくつもの坂があり、長年わたって親しまれてきた坂には名前がつけられています。また、多くの坂が南西に面しているため、冬の時期には坂の上から富士山と多摩川の壮大な眺めが得られる場所もたくさんあります。

きしべの路おすすめルート 8.7km

成城学園前駅から二子玉川駅までの健脚コースです。左の写真のような道標や路面のサインがあります。地図の◆マークを参考に歩いてください。

gaisen carte
がいせん
崖線

ア・ラ・カルト



崖線のお散歩を、さらに
もうちょっとだけ面白く
するための「小ネタ」を
集めてみました。

！ 世田谷の崖線小話

●岡本3丁目の富士見坂は、 車道では世田谷一の急坂である。



岡本の富士見坂は武蔵野台地の先端に位置し、国分寺崖線にある急な坂道で、富士山を眺めるには絶好の場所である。昔は馬車が登れなかったという勾配22%の急坂である。

●荒玉水道道路は、 世田谷で一番長い直線道路である。

砧浄水場から杉並区の梅里付近まで、ほぼ9kmの直線の道路である。なぜ直線かというと、道路の下に太さ直径約1mの水道管が埋められているからである。

●ゴルフ橋の由来



大井町線の等々力駅近くの等々力溪谷の入口にある橋は、「ゴルフ橋」と呼ばれています。これは、昭和の初めに旧下野毛、等々力村に広大なゴルフ場があったことに由来します。

！ 古い建物を見つけたら (近代建築の見分け方)

散歩中にふと出会う趣のある建築。崖線沿いにも多く現存する近代建築は、こんなところに着目すると面白い。

●波打った窓ガラス

外から眺めて窓ガラスが波打っているようなら昭和30年代以前の建物である可能性が高い。大量生産で作られる現在のガラスとはまた違った趣。瀬田四丁目旧小坂緑地の旧小坂家住宅でも見ることができる。



●個性が光る「換気口」

もともと天井裏の空気調整のために設けられていた「換気口」はデザインもいろいろで、見比べるとおもしろい。意匠として飾りだけつけられているものもある。

●門柱や外構に大谷石

古くからあるお屋敷の門柱や外構には大谷石が使われていることが多い。ちなみに、おもいはせの路のサインにも街並みに合わせ大谷石が使われている。



? 坂の名前から知る崖線

●行火坂の由来はなに？

勾配が急なため、この坂を登るだけで体が熱くなるので「行火坂」と呼んでいた。別名「行善寺坂」ともいい、当時はこの急な坂を下り、調布橋を渡り、二子の渡しに行ったそうだ。



●お茶屋坂の茶屋ってどんなの？

江戸時代の始め頃、この地を治めていた旗本喜多見重勝が眺めの良い坂の上に茶室を建てて、喜多見の里から多摩川や富士山の姿を楽しんだと言われている。

●不動坂の由来はなに？

成城から喜多見不動に降りる不動坂。由来はこの喜多見不動にちなんだもの。昔ながらの切り通しの面影がある。

●「寮の坂」の寮って何寮なの？

答は尼さんの寮。伝乗寺の尼さん達の住んでいた寮があったことから名付けられたそうである。

！ 崖線ならではの生きもの

豊かな自然環境そのままに、さまざまな動植物が共存する崖線は「生きものつながる世田谷プラン」に位置づけられており、次世代に引き継ぐことが大切。サワガニやゲンジボタル、イチリンソウやキンランなど、ちょっと目を凝らして散策すると、近頃の都会ではめずらしい生きものと出会える。

●ドングリとカブトムシ

世田谷の崖線上で見られるドングリは10種類ほど。ちなみにカブトムシの幼虫は、コナラやクヌギの落ち葉でできた腐葉土の下で育ち、初夏になると成虫となって樹液を吸う。足元にこんなドングリが落ちていたら、夏にはその周りでカブトムシと出会えるかも。



コナラのどんぐり



クヌギのどんぐり



カブトムシ

●オオタカ、オニヤンマ、ゲンジボタル



オオタカ



オニヤンマ



ゲンジボタル

！ 崖線沿いには古墳が多い

多摩川沿いの崖線沿いには野毛大塚古墳や上野毛稲荷塚古墳、御岳山古墳など多くの古墳が点在する。太古の昔から川が人々の暮らしと密接に関係していたことや権力者が眠る地として眺望のいい場所が好まれたことが関係していると考えられる。

ちなみに静嘉堂文庫も元々は旧三菱財閥・岩崎家の廟所(墓所)として買いもとめられたところ。

omoihase route



九品仏浄真寺

三品九体のとても大きな阿彌陀仏を安置する三棟の仏堂があり、九品仏の俗称で有名です。旧奥沢城主、大平出羽守の城跡に建てられ、今でもその土塁が残されています。本尊、梵鐘、仁王門等の貴重な文化財が多く、広い境内には都の天然記念物に指定されているカヤやイチヨウの大きな木があります。

ぽかぽか広場

明治45年(1912)に創設された玉川浄水場。世田谷の近代的な水道設備による給水が開拓されたのは大正10年(1921)からで、玉川田園調布に建てられた住宅への供給が最初です。この広場は貯水場上部に作られました。

宇佐神社

多摩川に向かって坂道を降りる途中に、宇佐神社があります。本殿の裏には鎮守の森があり、八幡塚古墳がひっそりと佇んでいます。



伝乗寺

本堂には、柔和なお顔のお地藏様が安置されています。頭と身体で造られた年代が五百年も違うといわれ、昔から「大変なご苦労をなさったお地藏様」だと伝えられています。

御岳山古墳

5世紀後半から6世紀中頃の円墳で、かなり勢力のあった豪族のものといわれています。満願寺に保管されている7つの鈴のついた鏡「七鈴鏡」はここで見つけられました。

等々力溪谷



全長約1キロの等々力溪谷は、23区内唯一の溪谷です。谷間は木々に囲まれ、ひんやりとした風の吹き抜けて行く様は、まるで幽谷の趣を残しており、都指定名勝として文化財指定されています。途中には8世紀頃のものと言われる横穴古墳があります。さらに、等々力溪谷を川下へ降りて歩いて行くと、滝の音がとどろいてきます。いくつかある等々力の地名の由来のひとつ「不動の滝」です。等々力不動の本尊の不動明王は役の行者の作と言われ、色々な願い事にご利益があると言われています。

玉川野毛町公園(野毛大塚古墳)

公園の一角には、墳丘の全長82メートル、高さ約11メートルの帆立貝式としては全国最大級の前方後円墳があります。勾玉やガラス玉などが出土し、現在は国立博物館に所蔵されています。

季節や時の流れとともに表情を変える古代から現代までの様々な顔が見える路です。歴史におもいをはせるといことから名付けられました。

マップの使い方
この面を地図側に折り返すと、地図とあわせてルートを紹介がご覧いただけます。



六所神社(野毛)

丸子川から坂道をのぼると、左手石段の上に六所神社の大きな鳥居がみえます。旧野毛村に散在していた6つの寺社を合祀して、ひとつにまとめた神社です。そのため祭神は六柱それぞれの神様です。



善養寺

境内にある、都の天然記念物の指定をうけているカヤの大木は、見るものを圧倒せんばかりの迫力です。また、お寺には五拺竿なるものが寺宝として祀られています。お香で心身を清めた者が、この五拺竿に額をつけると、ご利益を授かると言われています。

上野毛自然公園

国分寺崖線の林をそのまま公園にした、土の匂いと木の香りがいっぱいの自然一色の公園です。木々の間を縫うように地面より高い位置に階段が設けられていて、園内の散策の便をはかっています。階段をのぼりきった高台には桜があり、春には一面が淡いピンクに染まります。



五島美術館

平安様式に造られた美術館には、多くの古美術が展示されています。庭は手入れの行き届いた日本庭園と自然を残した斜面とから成り、20数種の石灯籠や様々な表情をした野仏、六地藏が置かれています。

富士見橋(上野毛)

五島美術館わきの切通しを走る東急大井町線にかかる富士見橋。ここからの景色は絶景で、美しい地域づくりの推進を目的とした国土交通省の「関東の富士見百景」に選定されています。

法徳寺

本堂右の筆塚に「明治十四年五月半嶺開書」とした碑がたっています。幕末から明治初期にかけて法徳寺に寺子屋を開き農村子女の教育に献身した大塚貞三郎を讃えたものです。



行善寺

行善寺はその昔、玉川八景の眺望場所として多くの人々の訪れるところでした。二子の鮎漁とならんで、瀬田に行善寺ありと江戸市中に広く知られたようです。將軍もしばしば立ち寄り休息したといわれています。いまでも、朝夕に赤く染まった風景は、まだまだ一見の価値があります。

おもいはせの路おすすめルート 6.7km



九品仏浄真寺から二子玉川駅までのコースです。左の写真のような道標や路面のサインがあります。地図の◆マークを参考に歩いてください。